

地理 活動例 D 「日本の自然の特色」

(1) 学習単元と具体的な学習内容

<p>学習単元：内容（3）ア（ア）</p> <p>○自然環境からみた日本の地域的特色</p> <p>具体的な学習内容</p> <p>○日本の気候の特色</p>

日本の自然の特色を、世界の自然と対比させながらとらえる学習であるため、JSL 生徒にとっては母国での体験などを基にした学習が可能となる。また、様々な主題図の読み取り活動を組み合わせることによって、JSL 生徒の参加を促しやすい。

(2) 目標

①社会科としての目標

- ・気候や自然に関する主題図を利用して、地形や気候などにおいて、日本国内でも地域差があることを大観させる。

②身に付けさせたいスキル

- ・地図や日本の気候や自然に関連する主題図を読み取るスキル。
- ・資料から読み取った情報を関連づけて、日本語の自然の特色をとらえるスキル。

③身に付けさせたい日本語のスキル

- ・気候や自然に関する語彙や表現を知り、資料を読み取るスキル。
- ・得た情報を、地図や図を利用して分かりやすく整理するスキル。

(3) 対象とする生徒のイメージ

経験知識	地理の学習で、何度か地図の作業を経験している。日本での生活が 1 年以上で、日本の四季を経験している。
日本語の力	ひらがなやカタカナの読み書きができ、小学校 3 年生程度の漢字を読むことができる。地図などの作業に関する簡単な指示が、だいたい理解できる。

(4) 学習の流れと参加支援の例（全体の時間数 4 時間程度）

	在籍学級における学習活動例	学習への参加を促すための支援の例
つかむ	①世界的視野から見た日本の地形的な特色	○地勢を示す世界地図を見せ、日本の位置と世界の山系の様子を確認する。陸地には活発に活動している地域とそうでない地域に差があることを理解させる。
	②環太平洋の「環」の持つ意味から、世界の中での地形の特色を考える。	○太平洋（6 大陸 3 海洋については 1 年で既習）の位置と名称を確認する。太平洋をめぐる環状の山地等を具体的に示して理解を促す。

ひろげる	②世界の自然の特色をつかむ中で、日本の気候の特色を理解する。	○各気候の特色を、写真等を利用してとらえさせてから、気候区分を知らせる。(カードなどで示す) ○世界気候区分地図の色分けの意味を考えさせ、熱帯から寒帯まで、いくつかの気候のタイプがあること、日本が温帯に含まれていることに気付かせる。 ○日本の雨温図の読み取り、四季の写真などから、温帯気候の特色をとらえさせる。
	③日本の自然災害について地形や気候の特色と結び付けて把握する。	○地図や写真、体験をヒントに、自然災害についてブレーストーミングする。 ○日本が大陸と海洋にはさていることや、不安定な大地にあることを映像や主題図を利用して伝え、気候や地形とどのように関連するか考えさせる。
まとめる	③大きな陸地と海洋にはさまれた日本の特徴的な気候について考える。	○日本の風景の写真や主題図などを利用して、日本が世界でも豪雪地帯であることや、地震や火山の多い国であることをとらえさせる。 ○季節風や海流を主題図で調べさせ、太平洋側と日本海側の降水量が季節によって大きく異なることを理解させる。
発信する	④日本の自然環境を自分の国と比較し、発表する。	○母国の気候や自然について、経験的に知っていることを自由に話させる。 ○資料集やインターネットで得られる資料を準備し、何か視点を決めて比較させ、両国の自然環境の違いをとらえさせる。

※網掛け：(5)指導案で示す授業

(5) 指導案

①本時の目標

気候区分図、雨温図、四季の写真などの読み取り活動を通して、日本の気候の特色を理解する。

②本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点、★教材	○日本語支援(タイプ)
導入	①大陸と海洋の配置、日本の位置について、大まかな世界地図を描いて説明する。	内容(1)ア世界の地域構成の復習 ※緯度・経度を意識した地域構成を考え、日本の位置を地図上に示させる。 ★地図と白地図、語彙カード	○これまで学習した関連する用語をカードで示す。【表現】

展 開	<p>②世界にある気候を確認し、日本がどの気候に属するか確認する。</p> <p>③日本各地に見られる気候を写真や映像で確認する。</p> <p>④気温や降水量を示すグラフを読み取り、特色ある気候をいくつかの地域に分類する。</p>	<p>・いくつかの特色ある気候の写真を地図上に示す。</p> <p>・日本が温帯に属することを地図で確認する。</p> <p>・温帯の気候の特色として、四季が見られることを写真で確認する。</p> <p>・気温と降水量のグラフを用いて、日本の各地に見られる気候の違いを確認する。</p> <p>★写真★世界地図★グラフ</p>	<p>○各気候の特色をつかんだ段階で、気候名を示す。【表現・記憶】</p> <p>○四季を、写真等と結び付けて説明する。【理解】</p> <p>○気温と降水量のグラフを関連づけられるように、具体的に問いかける。【理解】→問いかけ例参照</p>
ま と め	<p>⑤日本が世界の中でどのような地形的な特色があるのか説明する。</p>	<p>・説明は他の生徒が気付いたことと同じであってもよく、いくつかを表に表すことができる。</p> <p>★ワークシート</p>	<p>○気候名や降水量等に関する語彙カードを掲示しておき利用させる。</p> <p>【表現・情意・記憶】</p>

<キーワード> 熱帯、乾燥帯、温帯、亜寒帯（冷帯）、寒帯、季節風、降水量、気候

（6）教材・教具、問いかけ・応答の例

①問いかけ・応答の例

<（4）の③の活動の問いかけの例>・・・生徒の日本語の能力や、数学（グラフ）、地理的分野の学習の状況にあわせて表現を調整する。

○T「このグラフを見て、『グラフから分かることを説明してください。』

T「最初にこのグラフをみてください。（太平洋側の気候のグラフ）。折れ線グラフは何を示していますか。分かることを発表しましょう。」

S「〇月は気温が高い」「〇月は雨が多い」「〇月は気温が低い」「〇月は雨が少ない」等

T「そうですね、〇月から〇月にかけて、気温が高くて雨が多い気候を何と言いますか？」

S「夏だと思います。」

T「そのとおりです。」

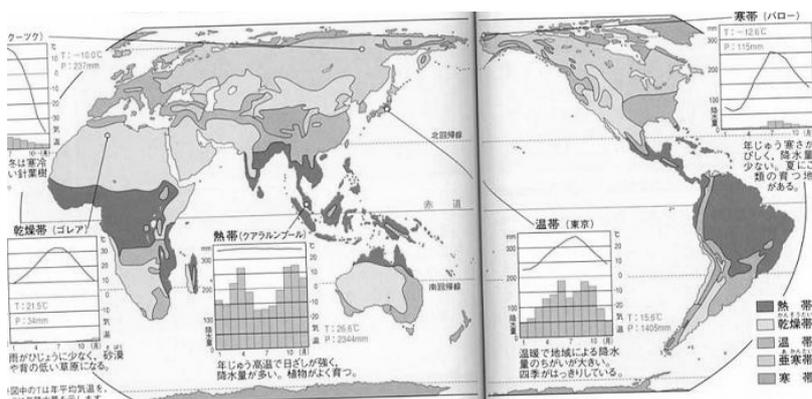
○T「それでは次に、グラフを比べてみましょう。グラフとグラフを比べて、違うところや同じところを見つけます。このグラフとこのグラフをみてください（太平洋側と日本海側の気候を示すグラフを比較する）。どこか違いに気付いたところがありますか？」

S「冬の降水量がちがいます。」「夏の降水量はこちら（太平洋側）が多い。」等

②教材・教具

地理的分野の内容（3）の最初の内容です。従前に内容（1）で、世界の陸地などについては学習していますが、世界と比較した日本の特色をとらえます。適宜世界や日本の主題図を用いて特色をまとめていきます。体感していることを理論に置き換える学習単位になります。

教科書や地図帳に載っている資料を活用して学習を進めることができます。



地図を使って、日本の位置や気候帯の名称の確認ができます。

気候帯の名称は、カードにして地図に貼るなどの工夫をします。

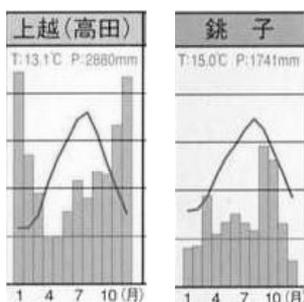
※「社会科中学生の地理 世界のなかの日本」 帝国書院

ねったい（熱帯）

おんたい（温帯）

日本

JSL 生徒の国名



グラフを使って気候の特色をつかませるように、グラフだけを取り出して提示します。

ここでも気候を示す言葉をカードにするなどの工夫をします。

きおん（気温）

こうすいりょう（降水量）

※「社会科中学生の地理 世界のなかの日本」 帝国書院

その他日本の各地域の雨温図、写真を用意する。

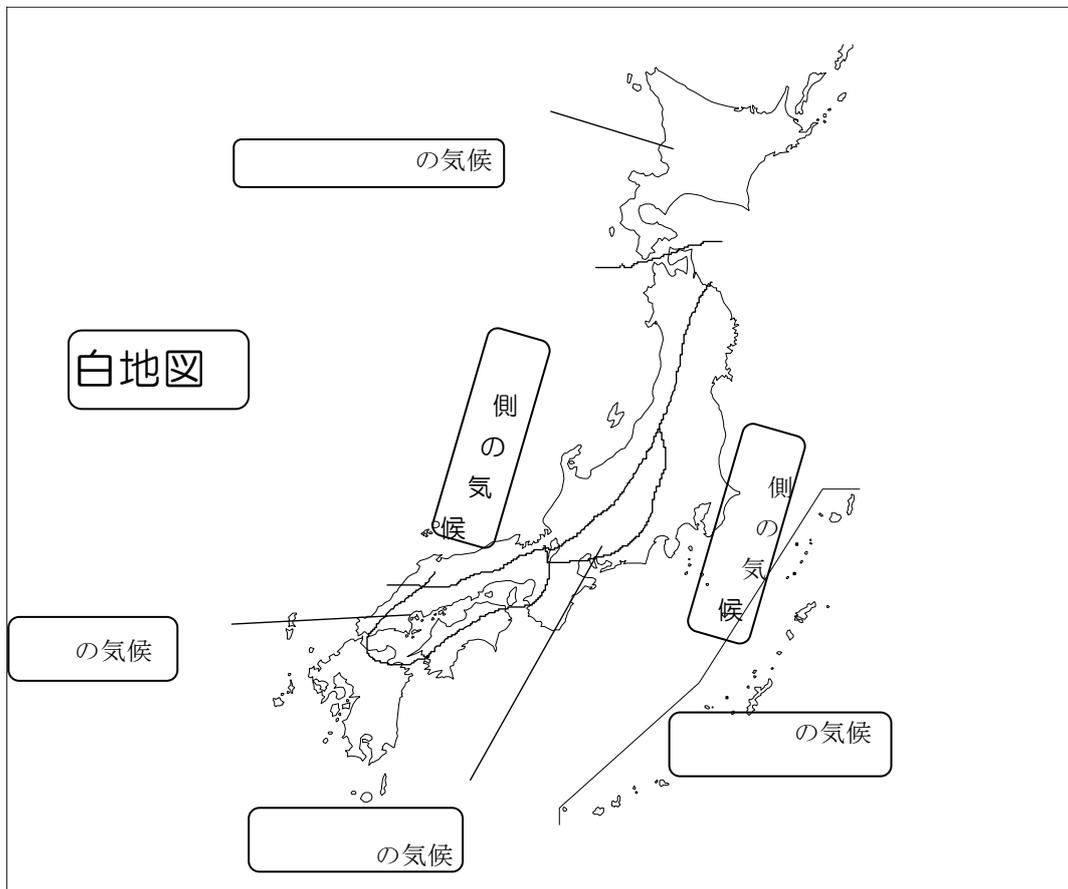
写真は、教科書や地図帳のものを活用することができる。

③まとめのシート

日本と世界の気候

日本は世界の中の（ ）の気候にあります。

日本の気候を白地図で表しましょう。



気付いたことを自分のことばで書いてみましょう。

